

## 田村剛にみる海岸地域の景観特性に関する研究

## —(その2)三陸海岸に着目して—

## A Study on the Landscape Characterization of Coastal Zone in Tamura Tsuyoshi

## —(Part 2) A focus on the SANRIKU KAIGAN—

○鈴木健介<sup>1</sup>, 横内憲久<sup>2</sup>, 岡田智秀<sup>3</sup>, 清永修平<sup>4</sup>Kensuke Suzuki<sup>1</sup>, Norihisa Yokouchi<sup>2</sup>, Tomohide Okada<sup>3</sup> and Syuhei Kiyonaga<sup>4</sup>

**Abstract:** The purpose is to grasp the landscape Characterization of SANRIKU KAIGAN. Therefore, The thought of Tsuyoshi Tamura who is a pioneer of scene research was analyzed. This research clarified the following thing.①Nine scenic spots are located on the SANRIKU KAIGAN②When admiring the seashore by ship, morning and evening is beautiful by small ship.③A seashore scene catches the seashore and a hinterland to one.

## 1. 背景および目的

前稿では、景勝という観点から国立公園の選定に尽力した田村剛に着目し、自身の風景観が記された「市政」の分析を通じて、わが国における原初的な海岸地域の景観特性について把握した。その結果、その分類は主に軀幹海岸、島嶼および内海の3形態であり、それを日本三大景勝地と称して、軀幹海岸の代表に三陸海岸を挙げていることを捉えた。この三陸海岸は2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災において、甚大な被害を受け、現在、その復興まちづくりとして景観形成のあり方が大きな課題となっている。

そこで本稿では、三陸海岸を対象として、田村剛の風景観を通じて、三陸海岸の原始的な景観の特徴や魅力について明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

本稿では、田村が三陸海岸に対し自身の風景観を綴っている。(財)国立公園協会の機関雑誌「国立公園」第31, 56, 57・58, 79 巻の計5巻を対象とする。そこから、三陸海岸の景観的魅力や特徴に関する記述を捉える。

## 3. 結果および考察

分析対象である「国立公園」より、三陸海岸に関する田村の記述を抽出し、「地名」「景観要素」「記述内容」の3つに整理したものをFigure 1に示し、各記述内容のうち地理的位置が特定できたものを分布図としてFigure 2に示す。以降はこれらをもとに特徴的な内容を述べていく。

(1) 自然海岸における景観要素—三陸海岸は、北は普代村普代川河口、南は釜石市大根岬までの直線距離90kmの外洋海蝕景観が主となる海岸とされる。宮古を

境に北と南では地形が大きく異なり、宮古を中心に北側は大体屈曲の少ない軀幹海岸になっており、南側は屈曲の多いリアス式海岸である。こうした三陸海岸について田村は、北の方に位置する北山崎一帯は海蝕崖が100~180mに及び連なり、アカマツをはじめハイビヤクシンやシロバナシャクナゲ等の植物景観を魅力要素として挙げている。次いで小本港付近には海蝕の好風景が見られるとし、さらに南下すると、田老町佐賀部付近はウミネコの繁殖地となっていて、繁殖期には特異な景観を呈していると指摘する。続いて、三陸海岸のほぼ中央部に位置する宮古周辺では、日出島、潮吹穴およびローソク岩といった奇勝に富み、また浄土ヶ浜は真白な砂浜、岩礁等の美しい別天地を形造っている。他方、宮古よりさらに南下すると本土の最東端の鮎崎では岩礁景観、そしてその南部にある船越半島の突端部では、200mに及ぶ大断崖とともに、その上に続くアカマツの自然林を一体として優れた大景観として賞賛している。このほか、船越湾内に浮かぶ大島にはタブの自然林があり、さらに南下すれば釜石湾頭の三貫島において、島内のオオミズナギの巣を指摘している。<sup>[1]</sup>

このように、田村は三陸海岸において、北から南にかけて、北山崎、小本港付近、田老町佐賀部付近、宮古周辺、浄土ヶ浜、鮎崎、船越半島、大島および三貫島の9ヶ所を取り上げ、地形や生態系に関して優れた景観要素を有する場所であると指摘している。

(2) 観賞形態—海岸線の地形が凹凸に富んでいる急峻な場所においては、臨海道路が整備されづらいため、海上を巡りその絶景を探るよりほかはない<sup>[2]</sup>。としている。上述したように、三陸海岸の地形も、主に外洋海蝕崖で形成され、凹凸に富んでいるため、舟による海岸鑑賞について細かく述べられている。まず、舟の規模につい

1: 日大理工・学部・交通 2: 日大理工・教員・建築 3: 日大理工・教員・交通 4: 日大理工・院・不動産

番号	地名	景観要素	記述内容	文献
①	北山崎	海蝕崖、アカマツ、ハイビヤクシン、シロバナシャクナゲ	○又アカマツの繁茂を許さない様な急崖、急壁面にはハイビヤクシン、ハマギク等の大群落が見られ、公園北部の北山崎附近にはシャクナゲも群生しているのである。	57・58p14
②	小本港付近	海蝕	○更に南に下れば小本港付近にも海蝕の好風景が見られるが、田老町佐賀部付近のウミネコ繁殖地が見ものであろう。	57・58p14
③	田老町佐賀部	ウミネコ	○公園区域内には海鳥が豊富に見られることであり特に田老町佐賀部のウミネコ繁殖地。	57・58p14
④	宮古周辺	日出島、潮吹穴、ローソク岩	○宮古湾にも好風景が見られ、日出島、潮吹穴、ローソク岩等の奇勝に富む	57・58p14
⑤	浄土ヶ浜	真白な砂浜、岩礁	○宮古市内の浄土ヶ浜は石英粗面岩の真白な砂浜、岩礁等の美しい別天地を形作っている。	57・58p15
⑥	鮎崎	岩礁景観	○宮古より更に南に下ると本土の最東端の鮎崎があり、優れた岩礁風景を現わしている。	57・58p15
⑦	船越半島	大断崖、アカマツ	○船越半島の突端部が優れ二〇〇米に及ぶ大断崖が聳え、更にその上にアカマツの自然林が続いている大景観を呈している。	57・58p15
⑧	大島	タブの自然林	○船越湾内に浮かぶ大島にはタブの自然林があり、外洋に面する部分には花崗岩の大テラスが発達している。更に南下すれば釜石湾頭の三貫島があり、全島よく原始性を呈し、島内には足の踏み場もないほどオオミズナギ鳥の巣があるのである。	57・58p15
⑨	三貫島	オオミズナギ	○更に南下すれば釜石湾頭の三貫島があり、全島よく原始性を呈し、島内には足の踏み場もないほどオオミズナギ鳥の巣があるのである。	57・58p15

Figure 1. The element, description, and the photograph of nine scenic spots evaluated by Hiroshi Tamura currently written to the national park [About ⑧, Since the photograph of "OMIZUNA of SANGAN island was not able to be obtained, it has not carried.](This is original Figure my authors.)

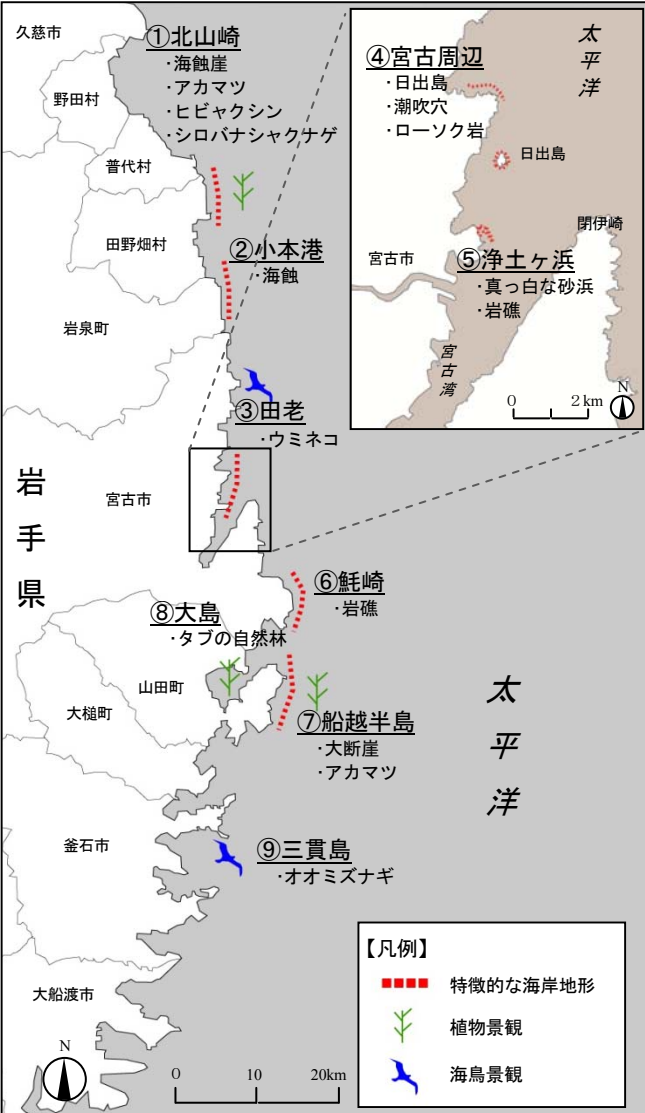


Figure 2. Nine selected scenic spot points by Takeshi Tamura [a number corresponds to Figure 1] (This is original Figure my authors.)

てであるが、1 トン以下の小船でなくては探勝の目的は果たされないとしている<sup>[3]</sup>。

また、海の観光についての記載もみられ、その季節および天候に関しては、太平洋側では冬に晴天が続くことを利点として挙げ、時間帯に関しては、朝夕が最も美しいとしている。さらに、1 日の中でも逆光を考慮し、眺める位置やルートを設定すべきと述べている<sup>[4]</sup>。この他にも、海から 5 km 以内の陸地の地貌は海岸の背景として重要であると指摘している<sup>[5]</sup>。これらより、三陸海岸を舟から鑑賞することは、岩石海岸をより身近で観賞できるため、その力強さや迫力を体感でき、さらに、移り変わるシーケンス景を楽しんでもらう狙いがあると考えられる。また、海岸線から 5 km 以内の陸地についても重要な視対象として位置づけていることから、田村における海岸景観とは、海岸線の景観要素のみならず、その背景となる後背地も、尊重していると考えられる。

以上のことから、三陸海岸には、変化に富んだ自然地形や生態系を景観対象とする 9ヶ所の景勝地が存在し、それらを、季節や天候、時間帯などを考慮したうえで海上から小型の舟で後背地も含めた海景を鑑賞することが三陸海岸の魅力であるということが捉えられた。

4. 参考文献

[1] 田村剛:「国立公園」, 財団法人国立公園協会, 57, 58 巻 pp. 14~15, 1954  
 [2] 田村剛:「国立公園」, 財団法人国立公園協会, 56 巻 p 3, 1954  
 [3] 田村剛:「国立公園」, 財団法人国立公園協会, 79 巻 p 4, 1956  
 [4] 田村剛:「国立公園」, 財団法人国立公園協会, 79 巻 p 5, 1956  
 [5] 田村剛:「国立公園」, 財団法人国立公園協会, 31 巻 p 4, 1952